

2019年9月21日～2019年9月27日

2019年10月1日

先週の回顧

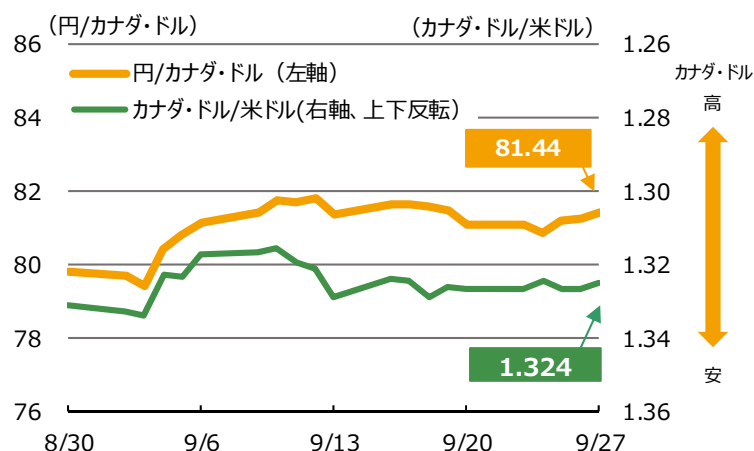
カナダ・ドルは、対円でおおむね横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りもおおむね横ばいになりました。

カナダの金利は、週前半は米議会がトランプ大統領の弾劾調査を開始したとの報道を受け、米国金利が低下したことに連れて、低下しました。週後半は、米中貿易摩擦緩和期待などから、金利は低下幅を縮めました。

経済指標では卸売売上高が発表になっており、市場予想を大幅に上回る良好な結果となっています。

カナダ・ドル 為替推移

(2019年8月30日～2019年9月27日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

今週の見通し

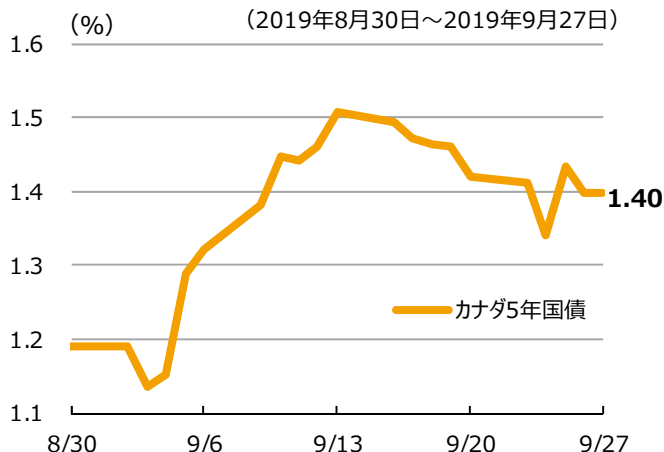
今週、カナダではGDP（国内総生産）の発表が予定されています。米国では雇用統計の発表が予定されています。

カナダでは10月に選挙が実施される予定になっており、トルドー首相は選挙公約として歳出の拡大、中間所得者への減税などを掲げています。そのため、財政刺激策への期待を背景にカナダの通貨は底堅く推移することが期待されます。

ただ、トランプ大統領の弾劾調査が開始されれば議事日程の逼迫から、年内の米・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の議会批准手続きに狂いが生じる恐れが出てきます。そのため、今後の米議会の動向には注目が必要です。

カナダ 金利推移

(2019年8月30日～2019年9月27日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。